

平成 25 年（2013 年）3 月期第 2 四半期決算概要

会社名 : クラレトレーディング株式会社
 代表者 : (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 片岡 史朗
 問合せ先責任者 : (役職名) 人事・総務部長 (氏名) 宮西 賢治
 : (TEL) (06) 7635-1636

(1) 当第 2 四半期の連結経営成績に関する定性的情報

当第 2 四半期累計期間（平成 24 年 4 月 1 日～平成 24 年 9 月 30 日）の当社経営環境は、欧州債務危機に端を発する欧米を中心とする景気低迷や、中国をはじめとするアジア新興国経済の減速、およびその影響から日本国内景気も足踏み状態になる等、全般的に厳しい状況が継続いたしました。

このような中ではありますが、今年度よりスタートしました新中期経営計画「GS-III」で掲げました、①環境向上資材・ヘルスケアなど世界的成長が予測されている分野への重点投資、②アジアを中心とした海外事業の拡大とそのための基盤整備、等からなる経営戦略に従い、持続的成長を実現するためのアクションプランの推進に注力しております。

当第 2 四半期の連結経営成績につきましては、売上高は 5 4 2 億 4 千 4 百万円（前年同期比 2 5 億 5 千万円、4.5%の減収）、営業利益は 1 6 億 1 千 9 百万円（同 1 億 3 千 3 百万円、7.6%の減益）、経常利益は 1 6 億 3 千 8 百万円（同 2 億 1 千 8 百万円、1 1.8%の減益）、当期純利益は 1 0 億 1 千 5 百万円（同 9 千万円、8.2%の減益）となりました。

【連結業績】

(単位：百万円)

	当第2四半期累計期間 (平成24年4月～平成24年9月)		前第2四半期累計期間 (平成23年4月～平成23年9月)		増 減	
	金額	利益率	金額	利益率	増減額	増減率
売上高	54,244	-	56,795	-	▲2,550	▲4.5%
粗利益	4,176	7.7%	4,283	7.5%	▲107	▲2.5%
営業利益	1,619	3.0%	1,752	3.1%	▲133	▲7.6%
経常利益	1,638	3.0%	1,857	3.3%	▲218	▲11.8%
当期純利益	1,015	1.9%	1,106	1.9%	▲90	▲8.2%

(注) 当社の連結子会社は、可樂麗貿易（上海）有限公司の 1 社であり、同社の連結累計期間は平成 24 年 1 月 1 日から同 6 月 30 日となっています。

【単体業績】

(単位：百万円)

	当第2四半期累計期間 (平成24年4月～平成24年9月)		前第2四半期累計期間 (平成23年4月～平成23年9月)		増 減	
	金額	利益率	金額	利益率	増減額	増減率
売上高	53,915	-	56,482	-	▲2,567	▲4.5%
粗利益	4,093	7.6%	4,201	7.4%	▲108	▲2.6%
営業利益	1,585	2.9%	1,709	3.0%	▲124	▲7.3%
経常利益	1,607	3.0%	1,815	3.2%	▲208	▲11.5%
当期純利益	992	1.8%	1,073	1.9%	▲81	▲7.6%

以下< >の中の名称は(株)クラレの商標です。

(2) 営業の概況

【繊維関連】(減収、増益)

売上高は210億円。前年同期比11億円(4.9%)の減収。

(衣料分野)

- スポーツ分野は、学校体育衣料向けに生地や製品販売が順調に拡大しました。また、アパレル向け高機能素材の販売や縫製品の OEM 販売は、一貫体制の取り組みが寄与し順調に推移しました。
- ユニフォーム分野は、特にワーキング向けが、夏場以降アパレルでの在庫調整の影響を受けました。
- ブラックフォーマル分野は、アパレルでの在庫調整や市場の低価格化の影響を受けました。
- 新機能原糸<クラカーボ>や<ミントパール>は、輸出を中心に顧客や用途開拓が進展し、底堅く推移しました。
- 上海現地法人では、テキスタイルとの連動による縫製までの一貫体制の構築に着手しました。

以上の結果、衣料分野は減収、減益となりました。

(資材分野)

- スポーツ靴用資材、メディカル関連資材は、好調な需要に加え、顧客との素材開発の取り組みが貢献し販売が拡大しました。
- 産業資材は、自動車用ゴム資材、高強力繊維<ベクトラン>の販売が拡大しましたが、一般産業用分野が国内市況因により苦戦しました。
- 人工皮革<クラリーノ>は、ランドセル用途が好調に推移しました他、手袋などの製品ビジネスが伸長しました。
- ワイピング用クロスをはじめとする不織布関連は、国内競合が厳しい中苦戦しましたが、上海現地法人を核とするフィルター等の中国オペレーションは着実に進展しました。

以上の結果、資材分野は、減収、増益となりました。

【樹脂・化学品・化成品関連】(減収、減益)

売上高は332億円。前年同期比15億円(4.2%)の減収。

- 溶剤等化学品関連は堅調に推移しましたが、その他の分野が全般的に伸び悩みました。
- 環境関連資材は、濾過膜を中心とする工業膜の販売が堅調に推移しました。

(3) 平成 25 年 3 月期の連結業績予想(平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日)

当社の販売状況は、中国をはじめとするアジア新興国の経済減速や、歴史的な円高の継続などにより輸出ビジネスが伸び悩んでいることに加え、国内景気の足踏みや原燃料価格の乱高下が重なっております。その上、夏場以降世界的な経済停滞が顕在化しており、当面厳しく、不安定な状況が継続すると認識しております。

「GS-Ⅲ」アクションプランの着実な実行を通じアジア市場を積極的に開拓して参りますが、上記の認識に基づき、通期業績を下表の通り修正いたします。

(億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
年初公表 (対前期比)	1,200 (+6.9%)	40 (+13.4%)	40 (+9.3%)	23 (+7.7%)
今回公表 (対前期比)	1,120 (▲0.2%)	35 (▲0.8%)	35 (▲4.3%)	20 (▲6.4%)

<注記>上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいており、実際の業績は今後様々な要因によって大きく異なることがあります。

以 上